

平成23年度第5回花見川地区学校適正配置地元代表協議会議事要旨

1 日時 平成24年3月10日(土) 14時～16時

2 場所 花見川公民館 1階大会議室

3 出席

(1) 委員21人

※代理出席：尾崎委員代理滝澤氏(花見川第三小保護者と教師の会会計)

※欠席委員1人(井元委員)

(2) 事務局 企画課高須課長、白井主幹、加茂主査、山崎主査補、安井主査補

(3) 傍聴者18人

4 資料

(1) 資料1：地元代表協議会における協議の概要

(2) 資料2：話し合いの進め方について

(3) 資料3：地元代表協議会委員から寄せられた「地元代表協議会で協議したい事項」

5 概要

(1) 資料をもとに「第一段階の協議事項」全体について議論した結果、適正配置は必要であり、次回から「協議 第二段階」へ入ることで合意した。なお、具体的には次のとおり進めることとした。

①花見川第三小学校と花島小学校と柏井小学校については、協議から当面外す。

②花見川第一小学校と第二小学校及び花見川第一中学校と第二中学校の統合については、具体的に協議を先に進める。

(2) 次回は、新年度に会長・副会長と事務局が相談し、6月ころを目途に、開催することとした。

6 会長挨拶

原田会長：今年度、第1回から第4回まで「学校適正配置の必要性」について議論してきた。まだ「学校適正配置の方向性」については議論していないが、子どもたちにとって適正な学校規模は必要だとの理解が進んできたと思う。本日もよろしく願いしたい。

7 報告（本日の議長：安恒副会長）

前回協議会について

●発言要旨

事務局：資料1をご覧ください。前回の第4回協議会では、資料2をもとに「話し合いの進め方について」事務局が説明を行い、花見川地区は、適正配置の必要性・地域との関連・進め方等について協議する「第一段階」にあることを確認した後、資料3をもとに「学校適正配置の必要性」について協議を行った。

本日は「第一段階の協議事項」全体について協議することが確認されている。

また、本日がこのメンバーで行う今年度最後の協議会となる。本協議会として「この花見川地区において適正配置が必要なかどうか」について、現時点での話し合いの方向性が確認できればと思う。

安恒議長：前回の協議会后、各団体で話し合われた内容について、報告をお願いしたい。まず、各学校の代表の方から願います。

板谷委員：花見川第一小学校PTAでは2月9日に懇談会を行い、第4回の協議内容を報告するとともに、意見交換を行った。「柏井小学校との統合は距離的に言っても地域性から見ても難しいだろうが、花見川団地内での小学校の統合についてはなるべく早く実施してほしい」「子どもたちのことを考えて、具体的に進める必要がある」などといった意見が多かった。ただ、特別支援学級である『たんぼぼ学級』の保護者からは、十分な配慮をお願いしたいとの意見をいただいた。

川口委員：花見川第二小学校PTAでは、2月15日のPTA理事会と2月23日の学校評議員の会議で報告を行った。「花見川第一小学校と第二小学校との統合は、同じ花見川団地内であるので進めたいが、柏井小学校との統合は、通学の安全面や距離を考えると難しいのではないか」との意見であった。

話は変わるが、「花見川地域『学校統廃合』問題を考える会」を名乗る団体から、私の住所へ直接資料が届いた。資料の中で説明されていた小規模校の良さや人数が増えることによる問題点は確かに理解できるが、それだけではない面もあると考える。

今野委員：柏井小学校PTAでは、地元代表協議会開催後、毎回、保護者と自治会を交えて報告会を開いている。「通学の安全確保や地域の特色を考えると、花見川団地内の小学校との統合は、現時点では難しいのではないか」との意見が共通認識となってきている。

尾崎委員代理（滝澤氏）：花見川第三小学校保護者と教師の会では、2月28日に保護者・地域との意見交換会を行った。統合には反対の立場の人がほとんどで、少数だがどちらとも言えないという立場の人もいた。「小規模校の方が良い」「花見川第三小学校はそのままが良い」「耐震補強工事が済んでいるので避難所として確保したい」等、全体として、「第三小については、適正配置は必要ない」という意見である。

熊谷委員：意見交換会には何人が出席したのか。

尾崎委員代理（滝澤氏）：10人である。

西田委員：花島小学校PTAでは、事務室前に資料を置いて見てもらっているが、特に意見は出ていない。専門部からも意見が出ない。新年度に向けて、このことについてどうしていくか考えていきたい。

大島委員：花見川第一中学校PTAでは、運営委員会だよりで保護者にお知らせするとともに、3月6日に開催した運営委員会でも討論した。運営委員会では、小規模校化に伴う部活動や教員配置の問題を中心に意見が出た。運営委員会出席者28人中、22人が統合を前向きに検討したいという立場で、残りの人も反対の立場ではなく、例えば子どもが卒業してしまうので、次代の保護者にお任せしたいなどといった立場である。全体として、子どもが少なくなる現状を見ると、統合を進めてほしいという方向性である。

ところで、本協議会の委員の住所は公開していないはずだが、私のところにも『花見川地域「学校統廃合」問題を考える会』を名乗る団体から、資料が届いた。住所を調べられて送られるのは、子どもを持つ親として不安である。今後は、自粛してほしい。

栢戸委員：花見川第二中学校父母と教師の会では、3月2日の運営委員会で報告したが、特に意見はなかった。

安恒議長：続いて、育成委員会、町内会・自治会等から報告があればお願いしたい。

藤井副会長：私は、先ほど花見川第三小学校保護者と教師の会から説明のあった意見交換会へ、育成委員会会長の立場でアドバイザーとして、補足説明や報告を兼ねて出席した。少ない参加人数ではあったが、第三小としては、適正配置は必要ないとの意見がたくさん出された。

また、3月1日の育成委員会理事会の中で、報告を行った。その中では今後、ある時点で、中学校の適正配置について協議することになるだろうという共通認識を持ってもらった。

安恒副会長：議長を離れて、育成委員会の立場で報告する。花見川第一中学校区内では、栢井小学校は通学の面や地域性から状況は異なるだろうが、それ以外の学校は前向きであり、具体的な協議が必要であるとの意見である。学校と地域との関係も考えなくてはならないが、子どもや保護者の視点を第一に重視して考えるべきだとの認識である。中学校については、小規模校化して先生方の負担が増えている現状を考えると、優先順位が高いのではないかとの雰囲気になっている。

8 協議

(1) 第一段階の協議事項について

●発言要旨

安恒議長：本日は「第一段階の協議事項」全体について議論する。**資料3**を見てほしい。「1 必要性」については、項目ごとに再度確認していきたい。

- ①「まずは適正配置が必要かどうかを話し合い、その必要性が確認された後、学校区の設定、統合校の位置など十分に話し合えばよい。」は、本協議会で確認されていることである。

②「学校適正配置は整理統合という一般社会の統合と同等の扱いとするのは子ども達の教育の観点から考えると違うと思う。大きな視点で協議すべきである。」も、本協議会において、子どもを第一優先で協議することが確認されている。また、子どもたちの数の観点だけではなく、地域の実情も踏まえて考えることになっている。

坂本委員：②は私が出した意見であるが、これまでの協議で理解できた。

安恒議長：先に進める。意見があれば随時出していただきたい。

③「子どもの健全育成の観点から、地域ごとの適正な学校配置を行うべきである。」は、一中育成委員会から出した意見であるが、柏井小学校については地域コミュニティが違うばかりではなく、仮に統合すると子どもたちの行動範囲が広がるとの趣旨である。

④「小学校・中学校とも、自分達の子どものいる間はこのままで静かにしてほしいという考えが多い。」及び

⑤「29年度までは今の状態が続くようなので、色々な混乱を考えるとこのままで進んで、小規模校のデメリットの改善を考えていくべきである。」は、このような気持ちもあることを踏まえて検討するということになる。

⑥「現状の中でより良い環境にすることを考えるべき。統合ありきではなく、白紙状態から話し合っていきたい。」は、「統合ありきではない」ということが本協議会の方針である。

⑦「少子化が深刻であり小規模校のデメリットも理解できるが、メリットも大きい。本当に適正配置が必要かどうかを話し合い、共通理解すべきである。」は、まさにこの場で議論していくことである。

⑧「花島小学校の統合に関わった当時の先生、PTA役員、保護者、自治会役員等の生の声を聞きたい。」については、第3回の協議会で事務局から説明があった。さらに必要であれば、聞き取りをしなければならないが、統合後6年が過ぎようとしており、統合を経験した子どももいなくなり、先生方もほとんど異動してしまっているのが難しい面もある。

⑨「全国的に統合は進んでいるが、地域の状況を十分に把握したうえで基準を明確にする必要がある。国や県の基準だけで論議すべきでない。」については、本協議会で地域の状況を踏まえて考えることになっている。

⑩「統合する1・2年前から交流する機会を度々もつようにする。早い段階から連絡を取り合い、自然に進むようにしてほしい。」は、第2段階以降の協議で具体的に議論する内容である。

坂本委員：補足したい。

⑪「通学路の状況（危険な道路等）、子どもたちの徒歩での時間（個人差）等についてどのように考えているか。スクールバス等、十分協議すべきである。」は、私が出した意見で、柏井小学校を念頭に入れたものである。小学校で概ね4kmという通学距離の基準が、果たして妥当かどうか。スクールバスの導入が可能なかどうか。第2段階の協議の中で、十分議論したい。

安恒議長：先に進める。

⑫「学校の安全は交通事故だけでなく、通学距離が延びることで変質者等の犯罪被害のリスクが高まることも考慮してほしい。」も柏井小と関係が強い意見である。

次に、「2 地域との関連」及び「3 進め方」の中で、意見はあるか。「(3) 子どもルーム」については、現状あるものはそのまま残るという認識である。

⑬「子ども達の安全確保の不透明さや学校が無くなった場合のリスク面（新しい住人の転入激減、既存の人の転出増加など）を考えると、柏井、横戸地区の衰退を防ぐため、今回の適正配置の候補から柏井小を外してほしい。」については、適正配置の必要性の判断を、個別に行うのか、全体で行うのかとも関連するだろう。

境委員：「子どもルーム」について。柏井小が花見川団地地区の小学校と統合した場合、「子どもルーム」に対するマイナスの影響は非常に大きいことを考慮してほしい。

阿部委員：花見川第三小で反対が多いことについてはどう考えるのか。

安恒議長：この場で議論すべき問題だろう。

阿部委員：第三小の子どもの声も大事にしたい。「地域の中の学校」という視点も大事である。

安恒議長：統合を進めたいという学校と、もう少し時間をかけて議論をすべきという学校とを分けて考えることも大事である。

熊谷委員：第三小の意見交換会に参加した10人の中で、出された様々な反対意見について、どのくらいの人がどの程度の割合で発言したのかがわからない。花島小学校で意見が出ないのは、保護者の根底に安心感があるからだ。すでに統合を行い、校舎改修も済んでいる。花見川第二中学校には課題がある。子どもたちの体力が非常に落ちている。一般に通学距離が長い学校の方が、体力があるし部活動の成績も良いようだ。中学校の統合の話は、積極的に進めた方が良い。時間をかければ良いということではない。

栢戸委員：花見川第三小と花島小については、時間をかけて議論するとして、仮に中学校については、前向きに話し合っていこうとした場合、協議の進め方はどうしたら良いのか。

安恒議長：「3 進め方」⑭に分科会方式という意見もあったが。

埴委員：⑩は私の意見だが、小中共通の議論とそうではない議論を分けることもできるということである。

大島委員：小学校の皆さんにも、子どもがこれから入学する中学校の問題と考えてもらえるとありがたい。

安恒議長：花見川第二中学校の学級数が、今後、急激に減るという推計（※）が出ているが、そのことについてどう考えているのか。

※第1回花見川地区学校適正配置地元代表協議会（平成23年6月26日開催）の会議資料の一つである「[花見川地区の学校の状況について](http://www.city.chiba.jp/kyoiku/kyoikusomu/kikaku/download/han1_school.pdf)」（http://www.city.chiba.jp/kyoiku/kyoikusomu/kikaku/download/han1_school.pdf）の中に、今後の児童生徒数・学級数の推計が載っており、花見川第二中学校は平成23年度9学級であるところ、平成24年度以降6～7学級で推移すると予測している。（この学級数は、国の基準である40人学級編制をもとに算定したものであるが、千葉県は学級編制基準の弾力的な運用を実施しているため、実際の学級数は、これよりも若干増える可能性がある。ちなみに平成23年度については、中学校1年は36人、2・3年は38人学級編制も実情に応じて可能としている。）

大島委員：中学では、学級数が減るということは、部活動数が減るとのことだ。

欧米とは違い、日本の子どもたちのスポーツ活動等は民間のクラブチームではなく、部活動が基本である。確かにこの地域にも、サッカー・野球・柔道といったクラブチームがあるが、子どもたちがそちらへ流れれば、部活動に加入する子どもの人数はますます減り、子どもの選択肢はなくなっていく。特に、チームスポーツは人数がいないと、学校として試合に出ることができない。

櫻本委員：④⑤は私が出した意見だ。適正配置よりも学校の耐震化を先にやってほしい。小規模校のデメリットへの教員の対応には限界もあるので、その改善策についても考える必要がある。

事務局：学校の耐震化については、学校適正配置とは分けて、全市的に進めている。

当初、平成27年度までに市内すべての学校の耐震化を完了する予定であったが、今回この計画を前倒しし、平成26年度までに完了することとした。

黒田委員：今ある学校はすべて、平成26年度までに耐震化を行うということか。

事務局：学校として存続していれば、すべて耐震化を行うという計画である。

阿部委員：平成26年度に耐震化を完了する学校の工事計画はどのようになるのか。

事務局：平成25年度に設計を行い、26年度に工事をするようになる。耐震化計画については、建物の耐震診断（Is値）結果等を考慮に入れて立てている。

櫻本委員：昭和58年以前に建てたものは危険度が高いはずだ。

安恒議長：これまでの協議から、もう少し時間をかけて議論する必要がある学校もあれば、花見川第一中・第二中や花見川第一小・第二小のように、議論を先に進める必要がある学校もある。このような学校については、第2段階の協議へ入ることも可能であると考えているが、いかがか。

原田会長：ゆくゆくは協議が必要だろうが、現時点では協議から外す学校を先に決めたらどうか。例えば、花島小学校はすでに統合校であり、協議から外すとの意見が大勢だろう。また、花見川第三小学校は、子どもの数から考えると適正配置は必要という見方もできるが、反対の保護者も多く、避難所と地域との関係もあり外す。柏井小学校についても、通学路の安全確保や距離の問題があるので外す。

まずは、花見川第一小学校・第二小学校及び花見川第一中学校・第二中学校について、先行して協議を進めたらどうか。

花見川第三小や柏井小については、今後極端に子どもの数が減ることでもあるだろうから、その時点で考えることにしたらどうか。

熊谷委員：今の提案は、花見川第三小・花島小・柏井小の関係者を完全に外すということではなく、協議には参加してもらおうという理解で良いか。

原田会長：そのとおりである。

熊谷委員：柏井小の状況については理解できるが、花見川第三小については、状況が違う。例えば、花見川第三小の学区内で、（事情があり許可を受けているのだろうが）隣接する作新小学校へ通わせている保護者がいる。このような背景もあるので、もう少し統合の議論は必要だろう。第三小の保護者の中にも、適正配置に耳を傾ける者もいると思う。

阿部委員：第三小も時期が来れば、考える段階があると思う。現在、第三小は学校として頑張っており、落ち着いてきている。地域も協力している。

作新小へ通学している問題であるが、越境が簡単にできるとしたら、それは教育委員会の問題だろう。（※）

※千葉県では居住地により通学区域が定められており、学区外通学は特別な事由がない限り認めていない。詳しくは、<http://www.city.chiba.jp/kyoiku/gakkokyoiku/gakuji/122nyugagu02.html>を参照

原田会長：各学校から出された意見を現段階では尊重し、花見川第三小と花島小と柏井小は保留とするが、今後協議を進める中で、変わることもあるだろう。

大島委員：「外す」という意味は、「委員が抜ける」という意味ではないということが良いか。

原田会長：そのとおりである。

坂本委員：「協議 第一段階」と「協議 第二段階」との整理をどのようにつけるのか。

安恒議長：ひとまず、花見川第一小と第二小及び第一中と第二中については、具体論に入り、その協議の中で、あらためて「必要性」の議論に戻ることもあるだろう。

坂本委員：「協議 第二段階」に入るということは、「適正配置の必要性」については理解できたということだと思う。その中で、花見川第一小と第二小及び第一中と第二中について、具体論に入るといことだろう。

櫻本委員：私見だが、花見川地区ほど教育環境に恵まれた地区はない。学校はできるだけ残していきたい。

黒田委員：現実的には、原田会長の意見となるだろうが、第一小、第二小の統合という話し合いに狭小化しないで、通学区の問題や学校格差がいわれる中で、学校の在り方を考えていくことが大切である。

埴委員：柏井小の場合は、距離的な問題があり理解できるが、花見川第三小を外すことは理解できない。第三小の関係者は、もし統合ということになったら、花島小学校になってしまうだろうと考えているから、反対者が多いのだろうが。

原田会長：花見川第三小は、子どもの数で考えれば統合しても良いのだろうが、5千世帯を超える地域をかかえている。第三小を避難所という観点で見た場合、当面は「外す」ということにしたらどうかとの考えである。

埴委員：今の考え方であれば、花見川第一小と第二小についても同じではないか。

原田会長：現在、避難所の収容能力から、必要数を算定しており、その観点で見た場合、何校かは減らしても大丈夫との判断である。

安恒議長：時間が来たので、協議はここまでとする。本日の協議から、適正配置は必要であるとし、次回から「協議 第二段階」へ入ることとする。具体的には、花見川第三小学校と花島小学校と柏井小学校については、協議から当面外し、花見川第一小学校と第二小学校及び花見川第一中学校と第二中学校の統合について、具体的に協議を先に進めることとしたい。以上を本日の結論としたいがいかがか。

一同：了承

(2) 次回協議会について

● 発言要旨

事務局：本協議会は、おおむね2ヶ月に1度のペースで開催してきたので、次回は5月ということになるが、4～5月中旬ごろまでに各団体での役員改選等があり、本協議会の委員の変更もあるかと思う。

そこで、「次回は新年度に入ってから開催とする」ということを本日は確認し、具体的な日時については、6月ごろを目途として設定したいと思う。

今野委員：具体的な日時は今決められないのか。

事務局：役員の改選もあるので、今は決められない。新年度に入ったら改めて連絡するので、了解願いたい。

9 諸連絡

事務局

○議事要旨の確認

本日の会議の議事要旨を事務局でまとめ、委員の確認を経て、前回と同様に教育委員会のホームページ上に公開したい。（異議なし）

○協議の周知

本日の協議内容を必ず各団体に持ち帰り報告をして、保護者や地域の方々へお知らせいただきたい。そこで、話し合ってきたものを、次年度第1回目の協議会で報告し、再度協議を行う。

また、役員が変わられる場合は、引き継ぎをしっかりとお願いしたい。

○来年度の委員

①PTA・保護者会

会長を基本とする。会長以外が委員となる場合は、会長の推薦が必要となる。

②自治会

新年度、事務局から現在の委員へ問い合わせをする。役員改選等に伴い、本協議会の委員を交代する場合は、連協会長と相談の上、新たな方に就任を依頼する。

③学校評議員

交代する場合は、学校長と相談の上、新たな方に就任を依頼する。

10 教育委員会挨拶（高須企画課長）

今年度、一年間の皆様の真摯なご協議に対し、教育委員会を代表してお礼を申し上げます。

特に、本協議会の発足に際して、原田様、安恒様、藤井様には、大変お骨折りをいただいた。また、各委員におかれては、毎回、各団体に協議内容を持ち帰って報告と意見集約を行うとともに、この協議会で、代表として発言していただき、様々な角度から議論をしていただいた。

先ほどは、適正配置が必要だとの「協議 第一段階」の合意をいただいた。来年度は「協議 第二段階」に入ることになる。

今後も、花見川地区の子どもたちの教育環境の整備についてご助力いただきたい。

11 閉会（原田会長挨拶）

今年度、5回にわたる慎重な協議に感謝する。良い結果が出るよう進めていきたい。よろしく願います。